

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
人体の構造と機能及び疾病	医療は現在、多くの問題に直面している。それらを各論として捉えるのではなく、「医療とは何か」「健康とは何か」という原点に振り返る必要がある。ただし、医学の各論的知識なく総論を学ぶことは困難である。各回の授業では、疾患を取り上げるが、この知識を土台として自分たちの将来の「健康」をどう捉えたらよいか、その役割と目的を考えてほしい。
心理学理論と心理的支援	社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせない。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学ぶ。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説する。
社会理論と社会システム	本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について社会理論の専門用語によって体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。 具体的内容として、(1)社会学イントロダクション、(2)現代社会の理解、(3)生活の理解、(4)人と社会の関係、(5)社会問題の理解を取り上げる。
基礎ゼミナールⅠ	本ゼミナールは、大学での学びを始める人たちが、(1)学ぶ空間である～目的としている。このゼミナールは、少人数で構成され、相互に交流をはかりながら、個々人の能力を開発し発揮することをめざす。
基礎ゼミナールⅡ	学修スキルの習得を基本とするが、半期を通じて地域コミュニティをテーマとする具体的な課題に取り組み、より実践的な能力を身につける。こうした学修を通して、福祉を学ぶ者に必要な汎用的能力を養う。
現代社会と福祉Ⅰ	本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。またVHSやDVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜使い、受講生の知的好奇心を涵養することも併せて目的としている。

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
現代社会と福祉II	本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。またVHS、DVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することも併せて目的としている。
相談援助実習指導I	本科目の目的は二つである。まず、ボランティア体験を通して、社会における人と人との関わりを学ぶことである。次に、社会人として振る舞い、行動を学ぶことである。また、学士力として、対人関係力、問題解決力や問題解析力の基本となる力を身につけることもめざしている。特長として、施設を理解するため、グループで訪問しインタビューなどの体験的学修が挙げられる。
相談援助の基盤と専門職I	社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について学ぶ。
相談援助の基盤と専門職II	相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学ぶ。実践現場で生きる学びとなるよう、各自が問題意識を持って課題に取り組み、研究を進める学修プログラムとなっている。
専門プレゼミナールI	基礎ゼミナールで身につけたスキルを土台として、専門的な知識を身につける演習および、意図的・目的的に人と関わる実体験・ボランティア体験を通して利用者理解を深める。「相手の状況を把握する力」「アセスメント力」「個別化」「コミュニケーションの取り方」などの援助技術を培い、援助方法や支援方法を体験的に学ぶ。
専門プレゼミナールII	基礎ゼミナールで身につけたスキルを土台として、専門的な知識を身につける演習および、意図的・目的的に人と関わる実体験・ボランティア体験を通して利用者理解を深める。「相手の状況を把握する力」「アセスメント力」「個別化」「コミュニケーションの取り方」などの援助技術を培い、援助方法や支援方法を体験的に学ぶ。

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
社会保障論I	<p>社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて学ぶことにより、制度の体系と概要について理解する。さらに、社会保障の財源と費用、社会保障制度の動向、医療保障、介護保険制度の内容、現状、将来展望について学ぶ。</p>
社会保障論II	<p>まず、社会保障を構成する所得保証制度について理解する。また、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達・管理運営等について学ぶ。さいごに、現代社会における社会保障制度の諸課題について考察を行う。</p>
地域福祉の理論と方法I	<p>福祉国家から福祉社会への移行の中で、地域で福祉を担う必要があり、地域におけるソーシャルワークの重要性が高まっている。その実践には地域にある様々な資源(人や制度、施設)とソーシャルキャピタルを結び、人々の自立の支援が必要となる。授業では、地域や自治体の定義やソーシャルキャピタルについての概念を示し、地域福祉に不可欠なさまざまな制度や組織の役割、地域福祉計画の役割などを解説し、さらに福祉社会における地域福祉の意義を歴史的な経緯を含めて説明する。</p>
相談援助の理論と方法I	<p>対人援助のあり方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認、それらを実践に移していくことができる援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。具体的には、実習において、利用者の抱える問題や課題を利用者や家族の話の中から、また記録の中からまとめ出すことができ、具体的な支援計画を作成できることが重要である。また、利用者との話をどのように展開していくのか流れを形成する能力を身につけることをめざす。</p>
相談援助実習指導II	<p>社会福祉を学ぶには、福祉の現場(機関・施設や従事者等)について知る必要がある。本授業は、講義科目で学修した社会福祉の諸理論と現場実習をつなぐことを目的としている。特長として、社会福祉施設・機関で5日間実習する「基礎実習」がある。この体験により、社会福祉現場の業務や援助実践、就労姿勢等を学ぶ。また、本授業は、相談援助実習の事前学習ともなっている。実習先に応じた目標設定、実習日誌の作成、実習後の課題整理・レポート作成・ふり返しなどを個別学習とグループ学習(相互討議)によって行う。</p>